

令和2年7月27日

保護者の皆様へ

茨城県立鹿島高等学校・附属中学校長 小沼 浩幸

医療相談アプリ「LEBER(リーバー)」の活用について

日頃から本校の教育活動にご理解ご支援をいただきありがとうございます。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る学校運営についても同様にご協力いただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、今後、学校生活を安心して送っていくためには、生徒一人一人が体調管理を徹底することはもとより、その健康状態の全体管理も極めて重要でございます。

そのため、茨城県教育委員会では、全員で体調を管理して学校にウイルスを持ち込まない体制づくりを進め、生徒の健康管理及び学校の安全確保を徹底するため、標記のアプリを活用することといたしました。

このアプリは、毎日の体温を登録することで自己の体調管理ができるほか、学校でもデータを管理しながら、教員が児童生徒の体調の変化に迅速に気付くことが出来るもので、さらに、発熱などの体調不良による不安等がある場合には、チャットによる医療相談ができるシステムになっています。

本校においても、現行の健康観察カードに代わり、このアプリを試験的に導入することとなりました。保護者の皆様には、ご子息の体調管理にご活用いただくとともに、学校全体の健康管理及び安全確保にご理解ご協力いただきますようお願いいたします。

〈医療相談アプリ「LEBER」の概要〉

○機能

- ・体温及び体調の記録及びデータ管理
- ・医療相談(24時間チャットで相談可能 ※コロナ関連以外でも可)

○利用の流れ

- ・スマートフォンでアプリのダウンロード及びアカウント作成(別紙を参照ください)
- ・児童生徒(保護者)は登校前に検温結果を入力。⇒学校において生徒の体調を確認
- ・発熱が続くなど体調不良の場合、児童生徒(保護者)からチャットで医師に相談
⇒医療機関や薬の案内を受けられる

※個人情報情報は管理者のみが閲覧できるシステムになっています。

〈期間〉

無料で使用できる9月30日まで活用する予定です。